

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2025年 第8週（2月17日～2月23日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～ 手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎 さらに増加」

第8週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,878例であり、前週比30.9%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性角結膜炎、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ10.81、1.84、1.20、0.40、0.25である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比39%増の2,098例で、中河内14.16、南河内13.75、大阪市南部12.56、泉州11.50、大阪市北部11.23であった。全ブロックで増加している。

RSウイルス感染症は7%増の356例で、南河内4.06、大阪市北部2.62、大阪市西部2.30である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は20%増の233例で、大阪市南部2.39、堺市1.68、豊能1.41であった。

流行性角結膜炎は163%増の21例で、泉州1.17、中河内1.00、南河内0.75である。

咽頭結膜熱は7%増の48例で、大阪市北部0.77、中河内0.47、南河内0.38であった。

インフルエンザは7%減の515例で、定点あたり報告数は1.71である。南河内2.88、大阪市西部2.80、北河内2.22、堺市1.83、中河内1.77であった。中河内、南河内、堺市、大阪市東部では増加している。

新型コロナウイルス感染症は1%増の938例で、定点あたり報告数は3.11である。泉州4.73、北河内3.76、豊能3.57、堺市3.34、南河内3.17であった。

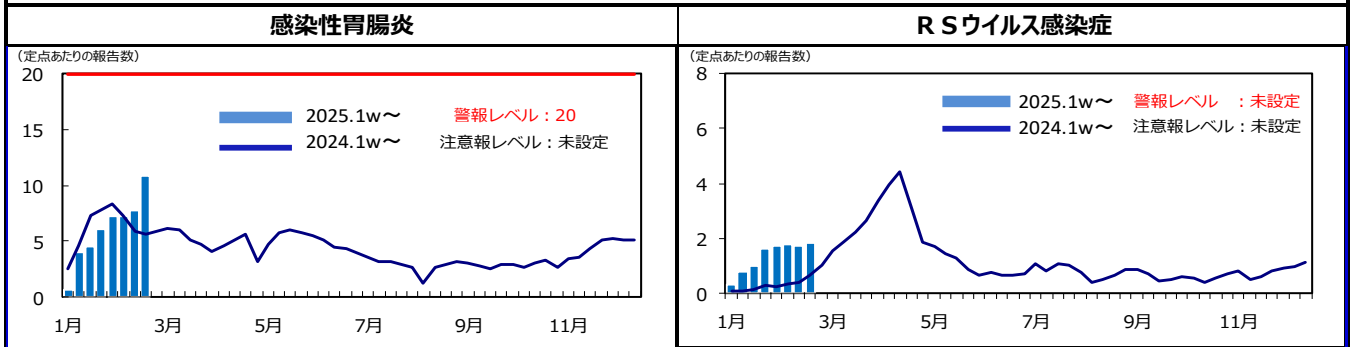


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2025年 第8週2月17日～2月23日）

第8週の順位	第7週の順位	感染症	2025年 第8週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2024年 第8週の 定点あたり 報告数	2025年第8週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	10.81	39%増	5.65	10-14歳_12%
2	2	RSウイルス感染症	1.84	7%増	0.66	1歳未満_38%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.20	20%増	3.02	10-14歳_18%
4	7	流行性角結膜炎	0.40	163%増	0.31	20歳以上_81%
5	4	咽頭結膜熱	0.25	7%増	0.36	2歳_19%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	1.71	7%減	13.41	10-14歳_22%
参考		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19定点報告疾患)	3.11	1%増	5.02	50-59歳_12%

詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症患者の発生状況について(大阪府)』の情報をご覧ください。

詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症(大阪府感染症情報センター)』の情報をご覧ください。

第8週のコメント

～麻しん～ ワクチンで予防可能な感染症です。

全数把握感染症																			
麻しん																			
<p>麻しん（はしか）は麻しんウイルスによって引き起こされる発熱を伴う発しん性疾患で、感染すると高熱と結膜炎などの症状と、全身性の発しんが出現する。潜伏期間は1-2週間である。強い感染力（一人の患者が12～18人に感染伝播）のため、麻しん発生時には早期の診断と感染拡大に対する措置が重要となる。2015年3月、日本は麻しん排除国に認定されている。</p> <p>一方で、2024年はアフリカやヨーロッパ諸国、日本との行き来が多い東南アジア諸国（ベトナム、タイ、インドネシア、フィリピン、マレーシアなど）での流行が認められ、国内でも流行地域への渡航時の感染が疑われる事例が報告されている。</p> <p>症状（発熱、せき、鼻水、眼球結膜の充血、発しん等）があり、1）1か月以内に麻しん患者と接触していた場合、2）麻しん流行国に最近の旅行歴がある場合、麻しんを疑い、感染拡大を防止するため、医療機関を早期に受診する。受診に際し、医療機関に事前連絡し、麻しん疑いを伝え、指示に従うことが重要である。</p> <p>麻しんはワクチン（1歳以上で2回）で予防可能な感染症であり、接種の徹底が予防や感染拡大の防止に重要である。</p> <p>麻しんとは（国立感染症研究所） 麻しん情報（大阪府感染症情報センター）</p>	<p>年別累計報告数</p> <p>大阪府は2025年第8週現在 全国は2025年第7週現在</p> <table border="1"> <caption>年別累計報告数 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>大阪府累計</th> <th>全国累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2021</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>2022</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>2023</td> <td>5</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>2024</td> <td>11</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>2025</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	年	大阪府累計	全国累計	2021	0	3	2022	0	3	2023	5	14	2024	11	45	2025	3	1
年	大阪府累計	全国累計																	
2021	0	3																	
2022	0	3																	
2023	5	14																	
2024	11	45																	
2025	3	1																	

表 2. 大阪府全数報告数（2025年 第8週2月17日～2月23日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3	1	1						1	12
5類感染症	アメーバ赤痢	1								1	6
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1						1			13
	急性脳炎	1		1							3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1						1			29
	後天性免疫不全症候群	1								1	17
	侵襲性肺炎球菌感染症	7	1		3	1	1		1		77
	水痘（入院例）	1			1						5
	梅毒	8					1		1	6	227
	百日咳	31	2	2	4	6	3		5	9	160
	麻しん	3					1		1	1	3
結核 (2024年12月分)	結核 新登録患者数：73名 (府内累積報告数 1,118名、内 肺・喀痰塗抹陽性 423名)	(内 肺・喀痰塗抹陽性 23名)									

(2025年2月25日 集計分)